

農林水産大臣賞受賞

楽しんで農業！ 農業資源をフル活用したむらづくり

のうじくみあいほうじん のやま
受賞者 **農事組合法人ゆめ野山**
(奈良県五條市)

■ 地域の沿革と概要

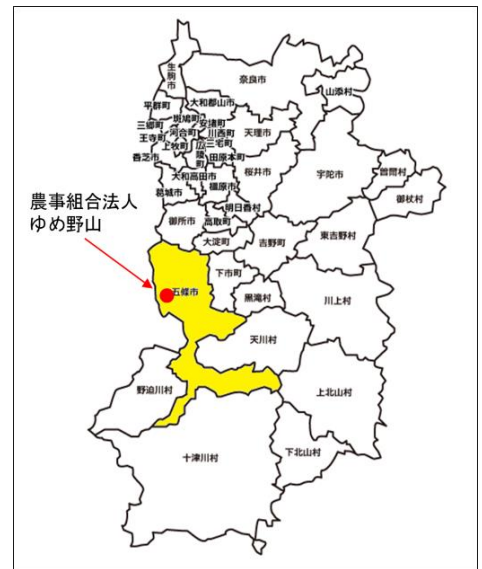
五條市は、奈良県の南西部に位置し、吉野川が市の中央を分断するように西流し、金剛山と吉野連山に囲まれた平地の少ない地域である。このため、五條市全域が過疎地域指定、振興山村地域指定、半島地域指定を受ける条件的に不利な地域である。平成17年度の市町村合併により旧五條市、西吉野村、大塔村が合併し、現在の五條市となっている。

五條市は平地、中間及び山間の各農業地域があり、各々に適した農業が盛んに行われている。平地農業地域においては、水稻のほか、田畑輪換によるナス等の露地野菜、トマト、キュウリ、イチゴ等の施設野菜など付加価値の高い農産物の生産が行われている。畜産業も盛んで、養鶏、乳牛、養豚は県内有数の生産地となっている。

中間農業地域では、水稻や野菜の作付けに加え、かきを主体とした果樹生産が行われている。なかでも、旧西吉野村（平成17年度に五條市と合併）では、昭和の終わりから平成13年までに国営総合農地開発事業が行われ、既成畑も含め1,382haの樹園地が形成されている。特に柿の収穫量においては日本一の市であり、奈良県の約90%以上を占める一大柿生産地となっている。また、ハウス柿の生産量は全国1位であり、全国3位のウメの生産量は県の85%を生産している。

山間農業地域では、ハナモモやコウヤマキ、クマザサといった花木生産が盛んで、全国5位の出荷量を誇る奈良県の切り枝生産の中心地となって

第1図 位置図



第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落の集合体
組織の性格	機能的な集団等
農家率 (内訳)	16.8% 総世帯数 11,199戸 総農家数 1,877戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家 503戸 1種兼業農家 166戸 2種兼業農家 574戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 29,202ha 耕地面積 3,033ha 田 933ha 畑 2,100ha 耕地率 10.4% 農家一戸当たり耕地面積 1.6ha

注：五條市

いる。

■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

五條市の西部、吉野川沿いに位置する14の集落(町)からなる五條市阪合部^{さかあいべ}村^{むら}地域では、古くから水稲、果樹、施設・露地野菜、畜産など農業が盛んであり、伝統行事等を通じた地縁的なつながりも強い区域であり、農事組合法人ゆめ野山(以下、本法人)は、阪合部村地域内の山陰町を中心とした5集落を受益としている。

なお、本法人は、中間農業地域に位置し、水稲を中心に小麦、シソ、ネギ、キャベツ等、多品目の高収益作物を生産している。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

地域内の水田は5a程度の小区画が多く、中山間地特有の不整形で作業効率も悪く、高齢化、後継者不足が顕在化していたことから、農業機械の経費負担を避けて耕作が放棄されるほ場が増加し、集落の将来に対する危機感が、平成の初め頃から住民に拡がってきていた。

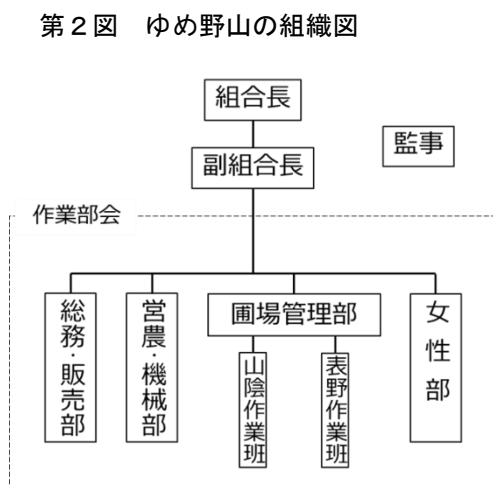
平成17年頃に山陰町を中心としたほ場整備の構想について、約3年にわたる話し合いを繰り返した結果、平成20年度に受益地面積29.5haの県営ほ場整備事業(経営体育成ほ場整備事業山陰地区)に着手し、「楽な農業を目指す」ことをスローガンに、平成22年に5集落の受益農家が集まって「営農組合ゆめ野山」を立ち上げ、平成26年12月には営農組合を法人化し、5集落、組合員数64名による「農事組合法人ゆめ野山」を発足した。

(2) むらづくりの推進体制

ア 本法人の組織体制、構成員の状況

本法人は、山陰町ほか周辺4町の受益農家64戸が全員参加しており、組合の役員は理事8名と監事2名で構成され、理事の中から代表理事組合長1名を互選している。

作業部会は、総務・販売部、営農・機械部、圃場管理部及び女性部で構成されており、各部の担当理事がリーダーとなって運営している。総務・販売部は、組合の運営、企画調整及び農産物の販売計画等を、営農・機械部は、農作業計画の実践に係る業務及び地域農業活性化のための交流、研修等の業務、並びに農作業機械・施設の導入整備と保守管理等を行っている。圃場管



理部は、山陰作業班と表野作業班に分かれており、それぞれの地区のほ場・水利等作業実践及び作業割り振り等を行っている。また、女性部は、農業生産活動への参画、農産物加工、地域活性化イベントへの参画等を行っている。

本法人に集積された農地は全て、これらの各部会の活動によって本法人として耕作されている。水稻、小麦など中心となる品目の作業は、平日に定年世代の5名が主に担い、休日には一斉メールで現役世代も招集し苗代、田植え、草刈りや収穫等人手が必要な作業を行っている。スイートコーンやキャベツなどの野菜は圃場管理部が担当し、定年世代の5名が生産から出荷まで行っている。

経理は、総務・販売部が一元化して資材の調達、生産物の販売を行い、労働費は組合員の出役時間に応じた配当としている。

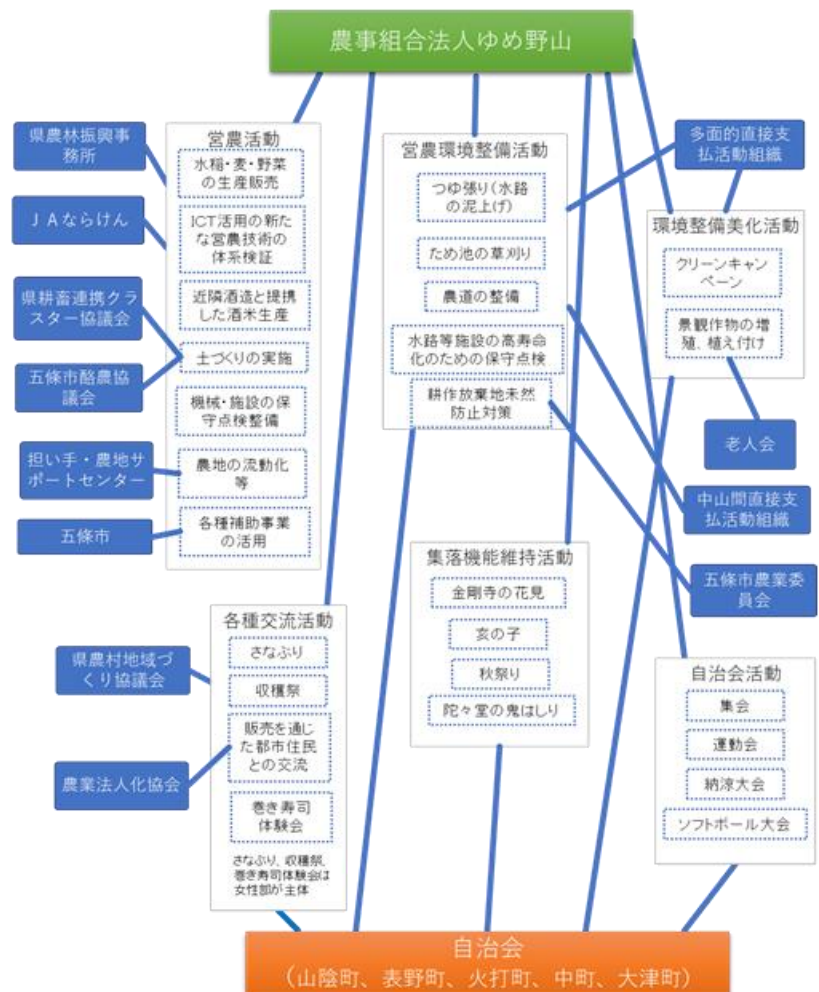
イ 本法人と連携してむらづくりを行う他の組織の状況

本法人を中心としたむらづくりは、関係団体等と連携することにより、更に効率的な運営を行っており、営農面で奈良県南部農林振興事務所、五條市等の行政機関、JAならけん、奈良県農業会議から支援協力を受け、土づくりでは、県耕畜連携クラスター協議会、市酪農協議会と連携を図り、農地集積に関連して

は五條市農業委員会、なら担い手・農地サポートセンター（農地中間管理機構）が互いに連携している。

各種交流活動等では、地元の各自治会をはじめ、各種関係協議会等の組織とも連携を図りながら、地域の活性化に取り組んでいる。

第3図 むらづくり連携体系図

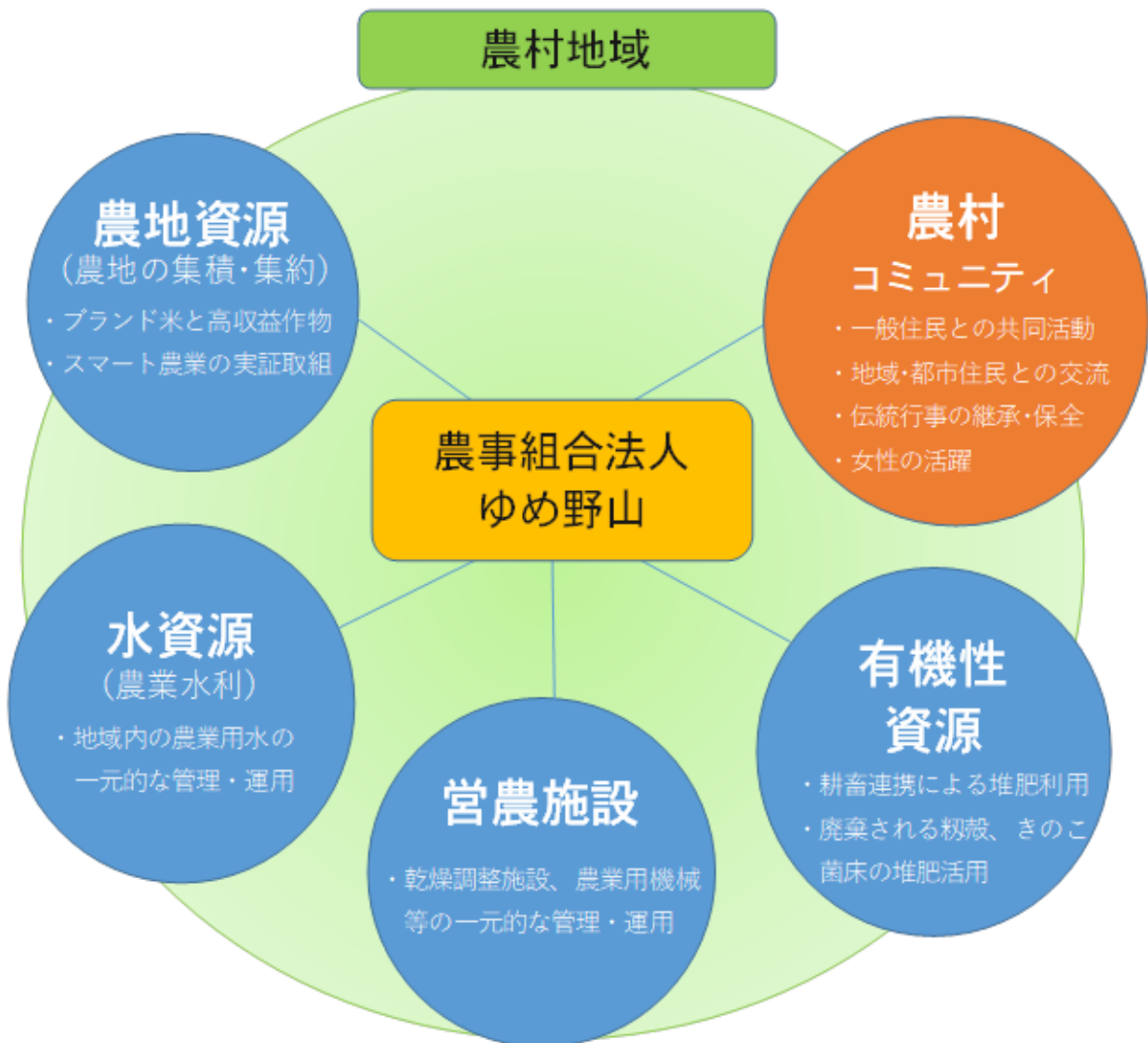


■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

本法人は、奈良県内で最初に農地集積に取組み、農地は農地中間管理事業により集積し、人・農地プランでは中心経営体となり、農地資源を最大限に利用して農業生産活動を行うと共に、各種交付金を活用し、地域住民を巻き込んだ運営を行った結果、地域内にある①農地資源、②水資源、③営農施設、④有機性資源、⑤農村コミュニティの農業資源の全てを管理するむらづくりを実現している。

第4図 管理する5つの農業資源



2. 農業生産面における特徴

(1) 地域内にある農地資源の全てを管理する事による営農の展開

ア ブランド米と高収益作物の拡大

農地中間管理事業により集積した約22haの農地を経営の基盤とし、水稲及び小麦の生産に加え、キャベツや赤シソなどの高収益作物の生産にも取り組んでいる。

ブランド米「ゆめ野山米」は、食味検査 80 ポイント以上ある「ヒノヒカリ」を中心としながら、「あきたこまち」などの早生品種から中晩生品種を組み合わせて 9.7ha を作付けており、乾燥調整・貯蔵まで行い、さらなる省力化を目指した疎植栽培にも取り組んでいる。

また、飼料米を 7.6ha、W C S（稲発酵飼料）を 1.4ha で取り組むことによって、水田のフル活用を図るとともに、耕畜連携によるワラ、堆肥の地域内循環にも貢献している。

野菜生産については、水稻に代わる高収益品目としての取り組みを進めており、キャベツ（加工用含む）をはじめ、カボチャ、スイートコーン、ブロッコリーなど年間を通じた生産によって安定収益を確保し、学校給食への食材提供も実施している。

また、野菜の中でも赤シソ、葉ネギは業者との契約栽培も行っており、赤シソは、五條市の特産品の一つであるウメの加工を行う農家との契約栽培で、本法人が栽培管理までを対応し、収穫作業以降をウメ農家が行っている。ネギについても同様に、栽培管理は本法人が対応し、契約業者が収穫することで、収穫ロスをなくし、商品化率の向上が図られている。

イ スマート農業の実証への取組

本法人は、持続可能な農業を指向することとし、「楽な農業を目指す」ため、五條市集落営農スマート農業推進協議会のメンバーとして、南部農林振興事務所や J A ならけん、地元農業委員会と連携して、ドローンによる水稻直播栽培、GPS 田植機の利用、スマートホン連携型水位センサーによる用水管理など、オペレーターの作業軽減やため池によるほ場の用水管理時間の節減を目指し、ICT 等を活用した新たな営農技術の体系検証を令和 2 年度から実施している。

スマート農業で実証しているドローンによる直播き、ICT 等の通信

写真 1 ゆめ野山米



写真 2 ドローンによる水稻直播栽培の実証

技術の活用は、集落における将来の持続可能な農業に向けて、次世代の若人の農業参画や高齢者の用水管理時間の短縮等を目指し、新たな営農技術を後継者の育成・確保に繋げている。

ウ 農業水利の一元管理による効率化

地域内にある農地資源の全てを管理することとなった結果、地域内の農業用水の水源であるため池からの取水後の管理・運用について、本法人が一元的に行うことにより、効率的な用水管理を実現している。

エ 営農施設の全てを管理することによる流通販売の促進

本法人は、農業機械だけでなく農業施設として乾燥調整ライン施設（ライスセンター）を整備しており、水稻の品質のムラをなくす色彩選別機を導入して、安定した品質の「ゆめ野山米」を出荷している。主食用米の販売については、介護施設など複数の契約販売に加え、インターネット販売やふるさと納税の返礼品として取り扱われている。その全量を消費者や飲食店に直接販売し、1千万円を超える販売額となっている。また、全量播種前契約を実施している地域の特産品である三輪素麺の原料となる小麦をはじめ飼料米、WCS及び加工用キャベツは、JAならけんと連携して生産・販売を行っており、多品目生産している高収益作物は、JA、直売所、市場出荷で流通販売している。さらに、近隣の酒蔵と提携した酒米の生産を試行し「大吟醸ゆめ野山」の委託製造や、農産物直売所で人気の高い茹でたスイートコーンの真空圧縮など、新たな商品開発の検討も進められている。



写真3 大吟醸ゆめ野山

オ 地域内で生じる有機性資源の活用による循環型農業の実現

五條市内の酪農家で構成する五條市酪農組合では、本法人がWCSを生産し、その後牛糞堆肥を投入するといった耕畜連携による地域内循環を実施している。水稻生産後のワラについても、奈良県肉用牛農業協同組合と連携し、組合員である肉用牛農家がワラの収集運搬を行っている。平成30年度には耕畜連携の県域組織である奈良県耕畜連携クラスター協議会の唯一の耕種側メンバーとして参加している。

水稻作付けに伴い排出される多量の粃殻は、その大半は近隣の堆肥製造業者に引



写真4 循環型農業の実現

き取られて、良質な堆肥となっており、本法人の農地にも一部還元されている。

また、地域内で廃棄されるキノコ栽培の菌床を引き取って、2年間かけて堆肥を製造しており、副産物のクワガタ、カブト虫は地元の子供たちに喜ばれ、少額ではあるものの売上げに貢献している。

3. 生活・環境整備面における特徴

本法人が上記のように、地域内にある農業資源の全てを管理する法人となったことから、農村コミュニティの形成・活性化についても、中心的な役割を担っている。

(1) 一般住民との共同活動

山陰町を中心とした当該地区内には、農家と一般住民（非農家）が混住している。このため、本法人では自治会と連携して、水路・ため池の維持修繕、山の道づくり、地区の美化活動（クリーンキャンペーン）なども行っている。

この取り組みについては、平成27年度より農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進する多面的機能支払交付金事業を活用している。本法人は、本事業実施者の一員として地域資源保全活動を積極的に担っている。



写真5 山の道づくりの様子

(2) 地域・都市住民との交流

本法人で主催する田植え後に行う「さなぶり」や稲刈り後に行う「収穫祭」は、農作業が一段落した時に、皆で労を労う催しとして盛大に行われており、非農家も含めた地域住民が気軽に参加する行事として、地元集落の職種や世代を超えた様々な人々の交流の場となっている。自治会主催の運動会やソフトボール大会等には本法人の役員も参加し、積極的な協力体制を築いている。

また、奈良県法人協会が主催する「農業法人フェア」や五條市役所が主催する市民との交流イベントにも積極的に参加し、お米等の収穫物販売を通じて都市住民との交流を深めている。



写真6 収穫祭の様子

(3) 伝統行事の継承・伝達

本法人の中心となっている山陰町には、金剛寺の花見祭り、「秋祭り」、「亥の子」や大津町には国の重要無形民俗文化財「ただどう陀々堂の鬼走り」等、集落のお寺や神社の伝統行事も多くあり、本法人の会員も積極的に参加するなど、その活動に対する地元からの期待は大きく、将来への歴史の継承・保全に貢献している。



写真7 陀々堂の鬼走り

(4) 女性の活躍

本法人では、女性部が組織されており、「さなぶり」や「収穫祭」など地域のイベントの際には、女性部が地元の収穫物を活用したメニューづくりを行うなど企画・運営を担っている。

平成30年度には、本法人の女性部が地区の老人会と共同で、地区内の環境美化として水田畦周りや道路脇に花苗の植栽を行った。



写真8 真空パック作業

令和元年度には、外部よりコーディネーターを迎えての地域活性化ワークショップや、地区の子供たちも巻き込んだ「巻き寿司体験会」を開催、また圃場管理部が生産したスイートコーンの規格外品を女性部が真空パックし、直売所への販売につなげるなど、女性活躍の場を広めている。